

公益社団法人私立大学情報教育協会  
平成 28 年度第 2 回 FD 情報技術講習会運営委員会議事概要

- I. 日 時：平成 28 年 11 月 19 日(土) 11:00 から 13:00 まで  
II. 場 所：公益社団法人私立大学情報教育協会会議室  
III. 参加者：高橋担当理事、今井委員長、竹内委員、家本委員、朽尾委員、  
(Skype) 及川委員、渡辺アドバイザー  
事務局：井端事務局長、野本

IV. 検討事項

FD のための情報技術研究講習会開催に向けて、講習概要について下記の検討を行った。

1. 全体会

- ・ 構成として以下の組み合わせで 1 日目午前中開催とした。
  - (1) アクティブ・ラーニングの視点 (30 分)
  - (2) 失敗事例 (30 分)
  - (3) 分野別事例、文理医系で 3 件程度 (各 15 分)
  - (4) 著作権 (30 分)
- ・ 総論としてラーニングピラミットの説明を入れて、形ではなくゴールを説明してはどうか。
- ・ 高次、低次のアクティブ・ラーニングがあるが低次レベルから説明してはどうか、正しかったのか評価に視点を当ててはどうか。
- ・ アクティブ・ラーニングの目的、教育論として何をしてもらおうのか整理が必要ではないか。
- ・ 学修意欲の喚起について気づきを与える仕掛けが必要ではないかなどの意見があった。

2. コース構成・概要

- ・ コースの設定案について、複数の考え方が委員から提案され、検討を進めた。
- ・ 一つは、知識伝達型授業が多いことからアクティブ・ラーニングにどのように変えるのか、知識修得・定着・確認のためのコース、二つは、深く考えさせるコースが考えられる。
- ・ LMS の可能性や限界を説明すること、授業目標に向けてどのようなメリットがあるのか、LMS があっても使っていない先生に何が出来るか体験させることや授業設計が大切ではないか。学生に興味を持たせ修得させることが求められる。
- ・ 授業ティーチングについて、どのようにしたらファシリテータに変わるのか、学生が躓く部分の学生目線が必要ではないか。
- ・ 知識伝達の過程でどのような方法が良いのか、学生に興味を持たせるところから入る方法も考えられる。動機付けや受け身学生対策の仕掛けをイメージできるように組み込みできないか。
- ・ コースの最初は共通として、ARCS モデルの説明を入れることにした。
- ・ 反転の演習として、スマホで録画してもらうことを組み込みことが検討された。
- ・ コース設定としては、2 コースにして、(1) LMS (2) 反転授業にすることにした。

V. 今後のスケジュール

- ・ 次回は 12 月 11 日(日)18 時から開催し、開催要項用のコース概要を検討することにした。